

# おりひめとひこぼし

## 七夕伝説

(上演時間 約15分)

みんげき組

### ● 登場人物

おりひめ

ひこぼし

天の神様

牛

星の精(1〜2名)※天の川出現時には黒子役を兼ねる場合があります

ナレーター

### ● あらすじ

むかしむかし、天の国に、「おりひめ」という機織りが上手な娘と、「ひこぼし」という牛飼いの若者がおりました。天の神様は、よく働く二人を結婚させることにしましたが、一緒に過ごす楽しさのあまり、二人は次第に仕事をしなくなりました。怒った神様は、二人の間に川をつくり、二人を引き離しました。悲嘆にくれるおりひめ。再び仕事をしようと思いませんが、良い着物は作れません。そこへ、ひこぼしが吹く笛の音が…。「頑張つて働こう」。再び仕事に励むようになった二人を認めた神様は、一年に一度、二人が会うことをゆるすことにしました。天の川の対岸に立つおりひめとひこぼしの前に、きらめく橋がかかります。星たちが橋をかけてくれたのです。

### ● 大道具・小道具

机と椅子(機織り機に見立てる)、浴衣や帯(機織りで作るもの)、布(ハギレ)、羽衣(あれば)、笛、冠(神様用)、牛(お面又は着ぐるみ)、スズランテープその他(天の川の作り方を末尾に複数案添付)、キラキラの折り紙、キラキラモール

### ● 作者より

中国に伝わる説をもとにつくりました。園児向けに、馴染みのある言葉(「着物」「ようふく」、仕事、働く)を敢えて使っています。実際に演じる際には、さらに分かりやすい言葉に変えていただいても構いません。子どもにも、悲しい心、揺れる心は感じ取れるのではないかと思います、七夕伝説の切なさ。会いたい。をテーマにしました。天の川の渡り方については諸説あり、カササギが登場するのが一般的かと思いますが、この物語に興味を持った子どもたちが実際に夜空を見上げた時、より現実感をもつて感じられるよう、天の川にかかる橋を「星」で作りました。ベガとアルタイルの間に星の筋が見えたら…。星に願い事をする七夕の伝説も、子どもたちにとつての現実になれば、と、願いを込めて。

ナレーター

むかし、むかしのお話です。  
お空の上の、天の国に、神様がおられました。  
神様には娘がおり、名前を「おりひめ」といいま  
した。

舞台上手でおりひめが機  
を織っている。下手にひこ  
ぼしと牛。中央に神様と  
いう配置。

ナレーター

おりひめは、機を織るのが仕事でした。  
機織りとは、おようふくを作ることです。

♪効果音

トントン、カラリン。トントン、カラリン。

できれば、竹を打ち合わ  
せるような音が良い。な  
ければ上記の音を台詞  
で。

おりひめ

神様。着物ができました。

神様

立派な着物じゃ。ごくろうさん、おりひめ。

ナレーター

天の国には、笛の上手な若者がいました。  
名前を「ひこぼし」といいました。  
ひこぼしは、牛の世話をするのが仕事でした。

ひこぼし

神様。おはようございます。

神様

朝早くからごくろうじやのう、ひこぼし。

ひこぼし

今日も牛たちはたくさん草を食べてくれました。

神様

うむ。

満足そうに

ひこぼし、服の間から笛  
を取り出す。それを吹  
く。

♪効果音

フィー、ヒョロロロ。

できれば笛の音源があれ  
ば良い。なければ上記の  
音を台詞で。